

1. 教育目標

豊かな感動体験を通して友だち同士育ち合い生きる力を育む

2. 本年度の領域別重点目標と園評価の記録

【領域別重点目標】

①保育・教育活動の充実

- ・(幼)子どもたちが、主体性を発揮しながら没頭して遊べる環境づくり
- ・(乳)乳幼児期の発達にふさわしい環境づくり

②職員の育成と資質向上や運営

- ・職員一人一人が研修を通じて意欲的に保育に取り組み、チーム力の向上につなげる。

③架け橋プログラム

- ・架け橋期についての理解と推進

④地域に開かれた園づくり

- ・保護者への丁寧な対応や、地域・各関係機関との連携強化

【園評価の記録】

- ・職員の自己評価(12月) ※「高知県教育・保育の質向上ガイドライン(改訂版)」の活用
- ・保護者アンケート(2月)
- ・園評価(3月)

3. 評価項目の達成状況

4段階評価 【4】十分達成した 【3】概ね達成した 【2】半分以上達成 【1】不十分

	評価項目	結果	考 察
①	子どもたちの主体的・対話的な学びを実現するための保育の展開	2.4	取組指標は2.3、成果指標は2.6で総合評価は2.4であった。乳児部と幼児部で取組指標と成果指標を各々で設定したが、幼児部の成果指標が2.8で、他は共に2.3であった。子どもの姿と遊びの環境づくりの面で、それぞれの指標によるレベル化が図られイメージしやすくなり、日々意識化されていた面がうかがえる。
②	記録の工夫を行うと共に、幼児理解に基づいた評価を図る	2.2	取組指標、成果指標は共に2.2で、総合評価も2.2であった。記録をとり活用することの意義は理解が図られてきているが、幼児理解という視点からは課題が残る結果となった。
	同僚性を活かした学び合いの場になる園内研修の実施	2.9	取組指標は、3.1、成果指標は2.7で総合評価は2.9であった。各種の園内研修の形態を取り入れることで、回数はもちろんのこと、取り組みの中で同僚性が培われてきたといえる。
③	地域の小学校と「架け橋プログラム」への共通理解	3.1	取組指標は3.1、成果指標は3.0で総合評価は3.1であった。これまでの取り組みの経過が反映された結果であると思われる。ただ、担任の評価が高いのに対し、幼児部の副担任の評価が低かったことは今後の改善点ともいえる。
④	保育の意図や幼児一人一人の育ちについて保護者と共通理解を図っていく	2.2	「保護者への対応」は2.4、「育ちの発信」「懇談の機会等の工夫」はともに2.2で、「クラス便りの工夫」は2.1であった。全般的に乳児部、幼児部ともに担任外の数値が低く、チームとしての取り組みのあり方を見直し検討する余地がある。
	地域に発信する子育て支援の充実(未就園児対象)	2.4	子育て支援の充実についての取り組みが、担当者レベルにとどまっているように感じられ内容発信と理解にも努めていきたい。

4 よりよい幼児期の教育を行っていくための改善策

子どもの主体的・対話的な学びを実現するための保育手法やその意義を見出せる一年となった。ウェブマップの活用の仕方を取り入れる等、子どもを捉える視点の広がりとともに保育者の発言も徐々に活発化しており、今後も継続していきたい。

日々の子どもたちの育ちゆく姿が、保護者に分かるような発信の工夫に努めながら、保護者とのコミュニケーションが一層図れるようにしていきたい。

全体的に、担任とそれ以外の各クラスに関わる職員との間で、評価結果が分かれる結果となっており、0~5歳児の全ての子どもたちの育ちを全職員で見つめ共有し、保育者の力量を高めていくことに引き続き力を注いでいかなければならないと感じている。

